

(様式 1)

令和 2 年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立第一寺島小学校
校長名	森 村 聡 彦

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から (平均正答率は、別表参照)

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・中でも全ての学年で国語の正答率が高いことが目立っている。・5年理科を除き、調査した全ての学年・全ての教科で全国平均を上回っている。・5年理科を除き、調査した全ての学年・全ての教科で同一集団の経年標準スコアが上昇している。・学校としての全学年全教科の総括値では、D層が25%から20%に減少している。・6年は調査した4教科全ての数値で、飛躍的な伸びを記録している。	<ul style="list-style-type: none">・算数科3～6年生のAB層は59%に増えたが、D層がいまだに26%を占めている。・全ての教科の基礎となる読解力の育成を、今後も着実に図り、学力の維持に努める必要がある。読書習慣の定着は有効である。・少人数担当教諭が配置されている算数科では指導の工夫が徹底されている。研修会を効果的に運用して、他教科でも個々の教員が持つ優れた指導方法を共有する必要がある。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・調査した全ての学年で「学級の環境」は極めて良好で、いじめが発生したり深刻化したりする素地は低い。また、授業規律も確立されている。・調査した全ての学年で社会性の指標となる規範意識や問題解決力、思いを伝える力も全国平均と同等か上回っている。	<ul style="list-style-type: none">・自己肯定感の素地となる3つの指標では3、6年生が全国平均の数値を上回っているが、その他の学年では全国平均と同等である。さらに向上させる余地がある。・他の数値が高い中、「友達のささえ」という指標が全国平均と同等である。児童間の人間関係を深める余地がある。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・授業規律が確立され、上位層はもちろん下位層の児童も課題に真剣に向き合って学習するため、全体の平均点が底上げされている。・学校内全ての学級が落ち着いており、教育活動や学習に集中できる環境にある。	<ul style="list-style-type: none">・真摯に努力すれば必ず成果が上がるという成功体験を実感できるような体験をさせる。・学習指導上の特別な支援を必要とする児童に対して、個別課題や個別指導の方法を工夫する。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 学力調査結果D・E層の児童への本格的な支援

- パワーアップタイムの実施
 - ・児童に対して無理のない放課後学習の時間確保
 - ・スモールステップでの学習
- 指導方法の工夫と指導力向上の研鑽
 - ・若手教員研修会「なすの会」他、職員間の指導技術の連携
- 家庭学習での保護者との連携
 - ・学年を遡った学習の振り返り（既習事項の復習と反復練習による確実な基礎学力の定着）
 - ・意欲付けができる教材の工夫

(2) 読書および家庭学習・自主学習の強化充実

- 読書習慣の定着
 - ・朝読書の確実な時間確保、確実な実施
 - ・教室や学校図書室の在庫充実
- 家庭学習・自主学習の充実
 - ・家庭学習パワーアップ週間の実施（年間2回、2週間ずつ）
 - ・定期的な課題を保護者との連携で確実に実施
 - ・調べるコンクールなどの手法を生かした自主学習の推進 校内優秀作品の技法習得

(3) 応用力を身に付ける学習

- 伝える力を育成する
 - ・学んだことを自分で分かりやすくまとめる学習
 - ・調べたことを相手に分かりやすくまとめる学習
 - ・分かったことを相手に分かりやすく発表する学習
- これから先のことを予測する力を育成する
 - ・学んだことから類推する学習
 - ・調べたことを比較する学習
 - ・分かったことを新しい知識として生かす学習

3 「令和3年度 墨田区学習状況調査」における目標

- ・全学年全教科の調査値が、全国標準スコアを3ポイント越えるよう基礎学力の充実を図る。
- ・経年変化比較における前年度からの成長数値を、これまで通りに全学年全教科で1～2ポイント伸ばす。
- ・算数科のD層を半減（13%）する。